

同窓会会報

高知県立大学看護学部

第13号

平成28年9月30日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



健援隊一よさこい祭りにて

ごあいさつ

同窓会会長 梶原和歌



高知では昔から「しなねさま」がくると涼しくなると土佐神社の秋の大祭を待ちわびます。その土佐神社で今年「まちの保健室」が高知県看護協会の試みで実施されました。まちの保健室は南裕子学長が日本看護協会会長をされていた時代に提唱されたもので災害時は無論、平時にも健康を護るための催し・相談機関として脈々と続いています。

さて、7月に同窓会総会を終了し会報13号をお届けする時期となりました。この間わずか2か月の間にいろんなことがありました。東北や北海道では観測史上はじめてといわれる夏の台風の襲撃を受け豪雨被害のために多くの命や財産が失われました。かつて台風銀座といわれた高知では台風の進行コースを睨み予防策をこうじていましたが最近、空振りに終わることが多く安堵しています。自然界の猛威に対して人間は避難し、過ぎ去るのを待つほか手立てはないのでしょうか。異常気象や生態系の破壊を食い止めるため国連環境計画では9月16日を国際オゾン層保護デーとして啓発活動をしています。阪神・淡路大地震、東日本大地震、熊本地震、そして予想される東南海トラフ地震が一体いつ起こるのかわかりませんが、備えの速度を速めて減災しなくてはなりません。

母校大学院には共同災害看護学専攻(博士課程)がスタートしています。この災害看護のグローバルリーダー養成教育は高知女子大に看護学科ができて、看護界のパイオニアとして道を創造してきた歴史と重なります。自然災害、人為災害の遭遇に対しきつと新しい安全・安心の視点を創って世界へと繋げてくれるのではないかと期待しています。

「つなげる」で感動したのはリオデジャネイロ五輪での陸上男子400メートルリレーで銀メダルに輝いた山縣・飯塚・桐生・ケンブリッジ飛鳥選手たちのバトンタッチの素晴らしさと強さでした。桐生は「4年前はオリンピックなんて想像もしていなかった。4年間で人はどれだけでも変わる。もっと変わってみたい」と語っていました。その思いは2020年の東京オリンピックへとつながることでしょう。その他テレビで観た体操の内村・白井、卓球の水谷・伊藤、水泳の渡辺、シンクロ、ラグビー、バドミントン等ここ一番の場面が脳裏を去りませんでした。選手一人ひとりの努力がチーム全体の力になって花開くというプロセスはスポーツだけではなく全ての組織活動にもいえることだと思います。あきらめないうで夢を持ち続ける意志とそれを支える環境の力を痛感します。

創基70周年の記念すべき年に、看護学部がここまでこられたのは南裕子学長と野嶋佐由美副学長のコンビがあったからこそで研究・教育・実践・組織運営が進んできたと考えます。看護学部同窓会としても誇らしくもっと同窓会活動を発展させたいと考えています。どうぞ忌憚のないご要望をお寄せ下さい。

主な内容

- ① 同窓会会長ごあいさつ
- ② 同窓会総会報告
- ③ 第42回高知女子大学看護学会報告
- ④ 懇親会
- ⑤ 懇親会に参加した卒業生から
- ⑥ 温故知新 その7
- ⑦ 看護学部・看護学研究科の活動

平成28年度 同窓会総会報告

平成28年度看護学部同窓会総会が、7月9日(土)に開催されました。本年度の総会は、ザ クラウンパレス新阪急高知を会場に、県内外から72名が参加して行われました。

同窓会長あいさつ

開会にあたって、梶原和歌同窓会長より、同窓会は時代のなかで、社会貢献できるよう、大学と臨床とのつながり、看護学部のネットワーク拡大を推し進めたいと話されていました。

議 事

議事進行にあたっては、議長に今村優子氏(学部30期、修士10期)を選出し、次第に則って審議されました。

最初に庶務担当の池添志乃氏より、平成27年度同窓会活動報告があり、会計担当の川上理子氏より、平成27年度決算報告があり、承認されました。

引き続き、平成28年度活動計画案および平成28年度予算案、役員について、それぞれ提案があり、承認されました。

70周年記念事業として、クリアファイルの作成・配布などを行うことが承認されました。また、ネットワーク拡大に向けて、卒業生の活動を今後も支援していくことが承認されました。

平成28年度活動計画

1. 会議
 - 1) 総会の開催
 - 2) 役員会の開催
2. 事業
 - 1) 70周年記念事業
 - 2) 講演会(高知女子大学看護学会との共催)
日時:平成28年7月10日(日)
高知県立大学創基70周年記念事業特別講演会
地域医療とケアの時代への看護学の挑戦
講師:南裕子先生(高知県立大学学長)
 - 3) 懇親会の開催
 - 4) 会報発行 第13号、第14号発行
 - 5) 高知女子大学看護学会への活動支援
 - 6) 学生及び同窓生活動の活性化への支援
 - 7) 緊急奨学金貸与
 - 8) ネットワーク強化



梶原和歌同窓会会長よりごあいさつ

会次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議長選出
4. 議事
 - 1) 報告事項
 - (1) 平成27年度活動報告について
 - (2) 平成27年度決算報告について
 - (3) 平成27年度会計監査報告について
 - 2) 審議事項
 - (1) 平成28年度活動計画案
 - (2) 平成28年度予算案
 - (3) 平成28年度役員について
5. 閉会



平成27年度活動報告

1. 会議
 - 1) 総会 平成27年7月18日(土)
 - 2) 役員会 3回開催
2. 事業
 - 1) 講演会(高知女子大学看護学会との共催)
テーマ:「災害時の要配慮者を対象とした
パッケージ開発の研究から見てきたもの」
講師:加藤令子(共立女子大学看護学部)
 - 2) 懇親会の開催
 - 3) 会報発行 第11号、第12号の発行
 - 4) 学生ボランティアへの支援
 - 5) 高知女子大学看護学会への活動支援
 - 6) ホームページの充実



総会における同窓会役員

同窓会役員名簿(平成28年度)



役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	梶原和歌	10期生	近森病院看護部
副会長	野嶋佐由美* ¹	20期生	高知県立大学看護学部
	中野綾美* ²	27期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子	38期生・修士13期生	高知医療センター看護局
	槇本香	51期生・修士12期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生・博士9期生	高知県立大学看護学部
	大西ゆかり	博士8期生	高知県立大学看護学部
会計監査	鶴浜祥子	26期生	高知市保健所
	矢野智恵	38期生・修士1期生	高知学園短期大学
庶務	角谷広子	25期生・修士5期生	芸西病院看護部
	池添志乃	34期生・修士2期生 博士1期生	高知県立大学看護学部
	川本美香* ³	修士13期生	高知県立大学看護学部

*¹:看護学会会長
*²:看護学部長
*³:看護学会名簿管理係

平成27年度 会計報告

平成28年度 予算案

○ 収入の部 (平成27年4月1日から平成28年3月31日)

費目	予算額	決算額	差引	備考
前年度繰り越し	8,506,001	8,506,001	0	
平成27年度会費	1,500,000	1,500,000	0	学部生 81人×15,000円 修士課程 16人×15,000円 博士課程 2人×15,000円 DNGL 1名×15,000円
寄付金	200,000	3,239,640	△3,039,640	19名:303,000円 高知女子大学看護学部附属施設を考る会:2,936,640円
利息	1,000	928	72	
収入合計	10,207,001	13,246,569	△3,039,568	

○ 収入の部(平成28年4月1日から平成29年3月31日)

費目	予算額	備考
前年度繰り越し	12,476,712	平成28年度在学生(学部、大学院)の終身会費を含む
平成28年度会費	1,485,000	平成28年度学部、大学院入学生99名分
寄付金	200,000	1口1,000円×200口
利息	1,000	
収入合計	14,162,712	

○ 支出の部

費目	予算額	決算額	差引	備考
会議費	20,000	16,688	3,312	役員会等
同窓会会報発行費	400,000	200,000	200,000	会報発行1回
高知女子大学看護学会支援費	300,000	300,000	0	高知女子大学看護学会への活動支援費
同窓会総会・懇親会運営費	70,000	39,136	30,864	運営・謝品等
学生支援費	100,000	0	100,000	学生災害ボランティア活動費(交通費等)
同窓生活動支援費	300,000	0	300,000	1件あたり上限10万円
緊急奨学金費	535,800	0	535,800	
事務費				
役務費	370,000	94,464	275,536	郵送費、切手、はがき代等
印刷費	70,000	41,700	28,300	封筒印刷等
消耗品費	70,000	11,002	58,998	ファイルほか事務用品、A4用紙、宛名シール
報償費	80,000	66,867	13,139	アルバイト料、各種手数料等
予備費	2,296,201	0	2,296,201	
繰り越し金	5,595,000	0	5,595,000	平成27年度在学生終身会費 学部生:333名、大学院生:40名
支出合計	10,207,001	769,857	9,437,144	

○ 支出の部

費目	予算額	備考
会議費	20,000	役員会等
同窓会会報発行費	600,000	会報発行3回-1回済
高知女子大学看護学会支援費	300,000	高知女子大学看護学会への活動支援費
創基70周年記念事業参画費	200,000	クリアファイル作成(3,000枚)-残2,670枚
同窓会総会・懇親会運営費	100,000	運営・謝品等
学生支援費	100,000	学生ボランティア活動支援(交通費等)
学生および同窓生活動支援費	400,000	1件あたり上限10万円
緊急奨学金費	535,800	授業料×1名
事務費		
役務費	370,000	郵送費、切手、はがき代、ホームページ管理費等
印刷費	70,000	封筒印刷等
消耗品費	100,000	ファイルほか事務用品、A4用紙、宛名シール等
報償費	240,000	ネットワーク強化などのアルバイト料等
予備費	11,226,912	
支出合計	14,162,712	

平成27年度 決算残高 収入合計 ￥13,246,569
支出合計 ￥769,857
差引残高総計 ￥12,476,712
平成27年度決算報告について監査を行い、以上相違ありません。

鶴濱祥子
矢野智恵

第42回 高知女子大学看護学会 高知県立大学創基70周年記念事業特別講演

平成28年7月10日(日)に『看護を可視化する方略』をテーマに、第42回高知女子大学看護学会が高知県立大学池キャンパスにて開催されました。高知県立大学は、前身である高知県立女子医学専門学校の開校(1945年)を「基」ととらえ、創基70周年を迎えます。そこで今年の講演会は、高知県立大学創基70周年記念事業特別講演として、高知県立大学学長南裕子先生を講師としてお招きし、本学会と合同開催いたしました。

当日は卒業生・修了生をはじめ県内外の看護職者281名のみなさまの参加を得て、活気ある学術集会となりました。

講演会



高知県立大学学長 南裕子先生

「地域医療とケアの時代への看護学の挑戦」というテーマで講演いただきました。

南学長からは、高知女子大学が開設される前の高知県立女子医学専門学校(医専)の時代からの本学に繋がる歴史の中で発展してきた看護学部の歩みとともに、少子高齢化、人口減といった社会の変化の中で、看護学の拠点としてどのような変化が求められているのかについて、昨今の社会の動きと看護界への挑戦、看護学への挑戦という視点からお話いただきました。

地域医療とケアの時代における看護ニーズの変化として、人口問題や地域における医療・介護の総合的整備の法律改正、教育改革の波、高知県の医療とケアの背景等にふれられ、看護学の発展に向けての様々な示唆をいただきました。そして、社会の変化に対応する看護学としてどのような挑戦をしていくのかについては、災害看護学の発展を例に示しながら、ローカルかつグローバルな視点からお話をいただき、今後求められる看護機能のあり方や看護学教育、看護学研究等について考える機会となり、学びを深めることができました。



参加者の方々からは、「心に響く内容でした。南先生の未来へ望む情熱に感動しました。」「人の事を自分の事のように思うという大切さを学びました。」「先生の百歩先を行くお考えに目からうろこが落ちた思いです。」「普段学生生活を送る中で、与えられたことだけをこなしている自分に気付くことができました。自分がかかわることで看護がかかわる。自分がかかわることで社会もかわる、という言葉に心に留め、高知に根差したケアが提供できる人として今何を知らないといけないうか、考えていこうと思いました。」「看護師としてこの春から働き始めて、業務に追われる中、改めて看護の大切さ、未来を見据えて働くことの大切さを学びました。」「県立大の歴史、日本の現状、高知県の現状、今後何が必要になり、自分には何ができるか、考える機会をいただきました。」などのたくさんの感想が寄せられました。



高知県立大学創基70周年記念ロゴに込められた思い



このロゴは、終戦とともに日本の女子教育をスタートさせ、たくさんの人材を育成し、現在では共学化を果たし、域学共生という新しい形の県立大学のあるべき姿に邁進している本学の、すでにある凛としたイメージを表現しています。学歌には「平和の鐘を音高くつけ」とあります。平和を理想に掲げる大学として、「鳩」をモチーフにしています。

凛として時代の風に立ち向かう姿。そして、将来に向けて空高く舞い上がる。小脇に抱えた書物は、その確信の象徴です。「学びにあこがれて」集う人々の「知の拠点」として、これからも地域に根差した大学であり続ける希望をこめました。

ワークショップ

午後からは以下の8つのワークショップが開催されました。

1. 急性期病院を地域包括ケアシステムに拓く方略
2. 在宅移行支援と在宅療養支援を可視化する～その子とそのらしく生活する場を創る～
3. 慢性心不全を増悪させないための看護の取り組み—生活支援の仕組みづくりと今後の課題
4. ハイリスク妊産褥婦の継続看護の可視化～実践と研究から看護介入を考える～
5. 人と地域をつなぐ・つながる 認知症支援の取り組み
6. 精神科医療の中で看護を可視化する方略
7. 終末期がん患者の在宅緩和ケアをコーディネートする看護の力
8. 看護の実践を語ることで気づく自己の成長

ワークショップにもたくさんの方が集まり、看護の可視化について活発なディスカッションが行われました。



総会

大学の食堂にてランチョン形式で行われた総会には、58名の学会員に参加いただきました。学部30期生 中島信恵氏と学部38期生 矢野智恵氏が議長として選出され、平成27年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告が行われ、承認されました。続いて、審議事項として、掲載論文の電子公開、編集委員会規定案、高知女子大学看護学会誌投稿規定改定案、平成28年度事業計画案、平成28年度予算案、運営委員会改選などについて話し合わせ、いずれも承認されました。



学会に参加した卒業生から



中島信恵さん(学部30期生、修士5期) 高知県健康政策部健康対策課

同窓会総会後の懇親会で「県立大学の良いところ」について、「卒業式から何年経っても、本当の卒業が来ないところ」とメッセージを送らせていただきました。高知県の保健師として就職してから30数年。これまで、様々な業務で大学には大変お世話になり、また、先生方には専門性の高いご助言を頂き、地元就職した者ならではの恩恵を数知れず受けて来ました。大変感謝しております。

さて、南先生のご講演で、県が進めています「日本一の健康長寿県構想」をご紹介いただきました。壮年期の死亡率の改善や地域で安心して住み続けられる県づくりなどを大目標として様々な取組をしています。中でも、県立大学には、訪問看護師の育成や在宅移行支援、南海トラフ地震対策など多分野で大きな役割を担っていただいております。南先生は、「グローバル化に対応するのは、

地元から」、そして「地域がわからないとグローバル化には対応できない」と地元根差した活動の大切さを強調されました。既に、県立大学は、地元高知県の保健医療福祉の課題解決に向けた取組に大きく貢献され、看護大学として地元への責務を果たす活動をされています。こうした県との協働が、県立大学のグローバル化の基礎を構成する一つになるという点を南先生から学びましたので、県で働く者として、県立大学には益々、県の取組にご指導、ご協力いただきたいと強く願っているところです。どうぞよろしくお願いします。

懇親会

南 裕子 学長



山崎 智子 先生を囲んで



乾杯！



中野 綾美 看護学部長



松本 女里 先生



先生お久しぶりです！

懐かしい話が
できました



山崎 美恵子 先生



会場に来ることができなかった
卒業生にもスライドショーで
会えました



卒業生による
スライドショー



大碓正徳さんによる
アコースティックギター演奏



会場は、より
和やかな雰囲気



今回はこの2人が
司会をしました

懇親会に参加した卒業生から



野中 邦子さん
(学部24期生, 修士1期生)

これまで参加できずの同窓会、お誘いの電話をきっかけに思い切って出席させていただきました。

学部同期に参加者がおらず少し寂しく出かけていきましたが、受付時から暖かく迎えていただき、また懐かしい先輩や後輩の姿に一気に心が弾みました。

山崎智子先生を始め、お世話になった諸先生方の変わらぬ笑顔、親しくお話もさせていただき、本当に心温まるひと時を過ごすことができました。厳しく熱心にご指導くださった先生方の傍にいて先生方に守られて好奇心旺盛に過ごした学部時代に引き戻される感覚が生じました。

今春に自分が定年退職したことが何だか不思議に思え、あの遠き青春時代から今日までの、長いようで短かった時間経過を改めてかみしめたことでした。ビデオレターでは若い卒業生が各所で生き生きと活躍しており、ひとりひとりを大切に育む看護学部の教育が変わることなく続いているのだと実感しました。縁あってこの母校に自分も席を置けたことを誇らしく思うと共に、感謝の気持ちで一杯です。母校の益々の発展を願っています。



堀 美紀子さん
(学部30期生, 博士5期生)
香川県立保健医療大学 准教授

大学を卒業後、今回初めて同窓会・懇親会に参加させていただきました。懇親会では、アコースティックギターの音色と甘く切ないボーカルに魅了され、知っている曲は自然に口ずさみ、スイングしている私がいきました。また、ビデオレターで、巣立っていった卒業生が誇らしく生き生きと働いているのを見て、先生方が一人ひとりの個性をいかに大切に教育されてきたかが伝わりました。私も大切に育てていただいたという実感がわき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。お世話になった先生方や同窓生との再会で、繋がりが新たに息を吹き返し、絆が強くなったような気がします。

私は今、看護基礎教育に携わっていますが、先生方をお手本にし、歳を重ねても学生とともに成長できるよう自分らしく心豊かな生き方をしていきたいと思います。

高知県立大学の看護学部がさらに発展していきますことを心から願っています。



町田 友里さん(学部62期生)
社会医療法人近森会近森病院
看護師

今回卒業して間もないですが、同窓会に出席させて頂きました。

同窓会を通して私は、卒業生達の強い団結力や学校への愛着を感じました。私が余興のために多くの先輩、後輩たちに声をかけたところ多くの方から賛同いただき、協力して頂きました。歴史ある大学だからこそ、時代によって変化していく、もしくは変わらず共感できる大学の良いところや学生たちの思いをみんなで共有できれば、と思い在校生、卒業生、教員などからメッセージを集めDVDにしました。多くの方の協力あって当日は大成功に終わることができました。参加者たちの喜ぶ姿に私が一番喜んでいました。

普段関わることのないような方たちにもお会いでき、また余興を通していろんな先輩たちにもお会いできました。私は余興の担当ということもあり、皆さんに顔を覚えていただけたのではないのでしょうか？とても歴史のある大学だからこそ、世代を超えた繋がりを作りやすく、なにか新たなきっかけができるのではないかと思います。協力して頂きました先輩、後輩、教員等皆様にはこの場をかりて感謝申し上げます。



永井真寿美さん(修士16期生)
高知県立大学看護学部 助教

大学院博士前期課程を卒業以降、同窓会・懇親会に参加させていただいています。高知女子大学から続く歴史をつなぎながら、毎年同窓生との交流の機会をいただけることを、大変ありがたく思っております。

大学病院に勤務していたころ、医師の先生方が同門のつながりの中で臨床経験を共有し、より良い診療のために研鑽されているのを羨ましく思っておりました。今、自分自身も、全国各地にいらっしゃる同窓生のみなさんの活動を拝聴し、自分の活動を振り返る機会をいただける環境にいることを実感し、とてもありがたく思っております。

今年は、大碓さんのアコースティックギター演奏や、62期生の町田さんが作成してくださったDVDを拝見しながら、高知県立大学同窓生のあたたかな雰囲気と、つながりの強さを体感することができる懇親会でした。同窓生の皆様の益々の活躍のもと、同窓会が発展していくであろうと思ったひとときでした。

同窓会・懇親会の開催に向け、ご尽力いただきました方々に感謝申し上げます。

温故知新 その7



朝日ジャーナル 1980年 2月8日号 (第22巻5号) p.40-46

同窓会報第10号に続いて、川島みどり先生が、1980年2月、朝日ジャーナルに寄稿された「高知女子大学—全国に先がけ四年制看護教育」を紹介します。

国内有数の貧乏県である高知県で、昭和二十七年看護婦の大学教育が全国に先がけて実現したことは、むしろ奇異の感さえあるが、いつでも何かを始めるに当たっては、少数であってもかたくなまでの執念と熱意に燃えた人々の存在があることを『大学三十年史』に見ることができる。それによると、当時、県の衛生部長であった聖成稔氏は、高知女子大学の歴史に名をとどめる一人である。氏は、女性の職業の中で、看護婦や保健婦は将来性があるという見通しのもとに、看護の高等教育の実現をはかろうという信念で、県首脳部の理解を求めるために奮闘した。また、この聖成氏の情熱を内部でしっかり支えたのが、看護係長の和井兼尾女史(現女子大名誉教授)であった。毎年予算期になると必ず起きてくる女子大廃止論議を交わしながら、何とか軌道にのってこられたのもこれらの人々の尽力をぬぎに考えられないという。(中略)

「先生、まだ学生たちががんばっているんですよ」

やがて夜も九時を過ぎようとしていたとき、松本女里助教授が入ってきた。山崎智子教授は「女の子だから遅くとも九時には帰るように言ってるんですけど、特には十時、十一時までねばられることもあるんですよ」「何をやっているんですか」「実習先でのいろいろな問題を見つけてきて、人間関係や老人問題、家族問題などについてのアドバイスを求めたり、どんな本を読んだらいいかって・・・」

看護学の教師は全員女性である。学生たちは、何でもざくばらんに話せて友達みたいという。そして四年間のあいだに全部あばき出されて、隠せるものは何もないのですといていた。山崎教授は三回生、松本助教授は八回生で、女子大はえぬきの教師である。だから自分たちの学生時代と比較して学生を見る目は温かだ。ちょっぴり批判もする。

「やれといわれたことは疑いも挟まず忠実にやり、できないとは決していわない。少々物足りない」

「融通性がなく真面目すぎる」。(中略)

学生たちと会ったのは日曜の午前中であった。臨地実習が始まっており、平日はむつかしいということで、数人の四年生が教室へ集まってくれた。彼女らが衛看を選んだ理由はさまざまであるが、共通しているのは“看護を勉強してみたい”という明確な目的意識を持って入学していることである。これは意外であった。

「病人にとって一番大切な思いやりの気持ちを持ちながら、その人に最善の援助は何かを、実践を通して理論づけてみたい」

「思い通りになかなかいかないことは実習を通してわかった。病院の中にはまだ年功序列が残っていて、若い人が何もいえない雰囲気があるし、独創的な看護はむつかしいと思う」

私は、九州のある若い婦長が「医師の専横はお話にならない。症状の悪化した患者の血圧を測って報告したら、誰の指図で測ったのだ！ 勝手なことをするなって怒るんですよ」と言ったことを思い出し、現場に出たらこうした事件は山ほどあるけど、どうすると尋ねてみた。

「看護婦が理論をもって説明することができれば対等になると思う」

このあと川島みどり先生は、若い学生さんである先輩方に、すこし意地悪な質問や評価をされているのが興味深いです。

教科書やその他の古い看護の文献、あるいは看護の雑誌等をお持ちの方で、寄贈してもいいとおっしゃる方がいらしゃったら、是非下記までご連絡・ご送付【連絡後、送料受け取り人払い】下さいますようお願い申し上げます。

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部同窓会 088-847-8718 (担当:川上理子)

看護学部・看護学研究科の活動

平成28年熊本地震における DNGLの活動

4月26日～5月1日の間、主に保健センターを拠点とし、被災された地域住民の状況把握や査定に関する活動を行いました。その中でコミュニティの共助力の高さを知り、災害時におけるその重要性を改めて認識する機会となりました。

<DN3西川愛海>

今回初めて災害派遣保健師と活動しました。派遣保健師の円滑でタイムリーな状況判断や支援体制構築や、地元保健師の受援力の高さを感しました。現場には多くの知があり、災害看護の構築へ向けても重要な視点を得る機会となりました。

<DN3諸澤美穂>

平成28年4月14日と16日未明に発生した熊本地震で被災された同窓生の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

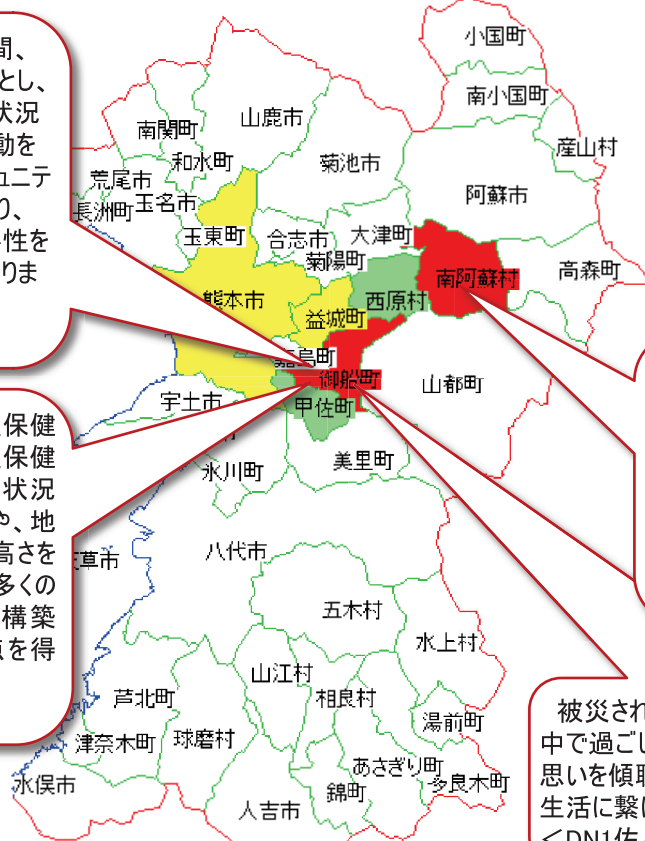
今年開学3年目を迎えた災害看護グローバルリーダー養成課程(DNGL)の大学院生たちは各地で精力的に支援活動を展開し、高知県立大学大学院の4名は、主に御船町と南阿蘇村で活動を行ってきました。

ボランティアセンター内でマネジメントや調整役を行い、多職種連携の難しさや共通の目的と目標を共有することの重要性を感じました。そして、唯一の医療者として活動するなかで、災害看護に期待されているものは何かと日々、葛藤し、災害看護の役割について改めて考える機会となりました。

<DN2野島真美>

被災された方々は余震により計り知れない恐怖感の中で過ごしていました。短時間でもその方に寄り添い、思いを傾聴することは大切なケアの一つであり、今後の生活に繋げることが看護の役割であると感じました。

<DN1佐々木康介>



熊本県 **現地活動拠点を置いた地域** **DNGL他大学の活動地**

オープンキャンパスが開催されました

立志社中プロジェクトによる活動紹介



今年度も7月31日(日)に、オープンキャンパスが開催されました。看護学部では377名の方にご参加いただき、大盛況となりました。在学生は、普段の学生生活をいきいきとした様子で高校生に伝え、とてもにぎやかで活気あふれる1日となりました。

4回生による心肺蘇生のデモンストレーションは毎年多くの見学者が訪れます!



災害看護のコーナー



学生相談の様子



看護学部の様子

4回生 南先生「看護学を学ぶ者から看護学を学び続ける者へ」特別講義にて



看護学部では現在1学年約80名が学んでいます。
平成28年度入学の1回生は、66期生になります。



3回生 懇話会にて



2回生 看護専門科目の集中講義にて



1回生 恒例のバスハイクにて



ボランティア活動にも積極的に参加しています



学内演習



イタリアからの留学生との交流



61期生が学会で卒業論文を発表しました



学生は
様々な場で
学んでいます！

ご寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。誠にありがとうございました。(敬称略 平成28年8月31日現在)

山田 薫(26期)	谷山 純子(38期)
佐々木 正子(34期)	福岡 恵美子(34期)
岡田 湊子(7期)	森下 利子(19期)
飯沢 由里香(26期)	北川 里佐子(27期)
佐藤 美穂子(18期)	岡崎 美紀子(3期)
上原 由美(32期)	林 美智子(35期)
高木 和子(13期)	

看護学部・看護学研究科の活動

看護学部では、毎年、各専門領域ごとに卒業生、修了生、また地域の専門職者の方々と学びを共有する場として看護相談室を開催しています。
今年度の予定が決定しています。
ぜひ、ご参加ください。
高知県立大学のホームページにも詳細が記載されていますので、ご覧下さい。



高知県立大学 看護学部

看護相談室

2016

11の専門領域が、高知県の保健・医療・福祉に従事する皆様方と共に、ケアの質を向上させることを目的としています。



<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>
日程の確認にはホームページをご活用ください



家族看護学 ■ 長戸研究室 ☎088-847-8708
ケア検討会 3回(7月、10月、12月)開催予定
リカレント教育 2回開催予定 日程調整中
交流同窓会 8/27(土)山形

精神看護学 ■ 田井研究室 ☎088-847-8723
ケア検討会 6/16(木),9/15(木),11/17(木),3/16(木)19:00~21:00
*専門看護師の方対象
リカレント教育 5/27(金) 19:00~21:00,9月以降に1回開催予定
交流会 7/16は日本精神科看護技術協会高知支部との共催
7/2(土)滋賀

がん看護学 ■ 藤田研究室 ☎088-847-8704
質の高いがん看護実践を検討する会6/11(土),10/1(土),2/18(土)
アストラル学習会 ①5/27(金)②7/30(土)③9/24(土)
④11/25(金)

クリティカルケア看護学 ■ 大川研究室 ☎088-847-8703
ケア検討会 6/18(土),11/5(土)10:30~
リカレント教育 6月開催予定

慢性期看護学 ■ 内田研究室 ☎088-847-8720
ケア検討会 10/26(水),12/14(水)
リカレント教育 9/30(金)

小児看護学 ■ 中野研究室 ☎088-847-8710
修了生の会 7/23(土)別府,10月・2月未定
赤ちゃん同窓会 10月下旬~11月上旬
卒業生の会 開催時期未定

母性・助産看護学 ■ 嶋岡研究室 ☎088-847-8707
ケア検討会 11月~12月頃開催予定
リカレント教育 1回開催予定

地域看護学 ■ 時長研究室 ☎088-847-8715
ケア検討会 6/17(金),7/29(金),11/11(金),12/22(木)
リカレント教育 6/9(木),12/20(火)

在宅看護学 ■ 森下(安)研究室 ☎088-847-8709
ケア検討会 6/14(火),10/11(火),2/14(火)18:30~20:30
修了生の会 開催時期未定

老人看護学 ■ 竹崎研究室 ☎088-847-8705
ケア検討会 6/9(木),10/13(木)18:30~20:30
リカレント教育 開催時期未定

看護管理学 ■ 山田研究室 ☎088-847-8716
ケア検討会 6/24(金),10/7(金),1/13(金)18:30~21:00
リカレント&交流会 開催時期未定

寄付のお願い

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願いいたします。
寄付金は、同封の振込用紙にてお願いします。ホームページでもご覧いただけます。
ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



(池添・楨本・川本)

今年の台風も各地に甚大な被害をもたらしました。同窓生の皆様がお住まいの地域に被害はなかったかと心配しております。
さて、高知の夏、よさこい祭りでは、今年も看護学部の学生が、熱中症予防の啓発活動を暑さに負けずに行いました。本会報の表紙の写真は健援隊メンバーの集合写真です。
高知県立大学では、創基70周年の関連行事が、様々な企画されております。本会報でも、その様子を取り上げる予定ですが、皆様方もぜひ母校に足をお運びください。



編集後記

事務局

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部
Fax:088-847-8750

ホームページアドレス

高知県立大学
<http://www.u-kochi.ac.jp/>
高知県立大学看護学部
<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>

